

令和4年度 事業評価シート

基本情報		所属名	文化課
事業名称	船橋市文学賞(船橋市文学賞・文学講座)		
実施根拠 (条例・規則・要綱等)	なし		
事業開始年月日	昭和63年度	最終制度改正年月日	
事業目的 (実現・達成したいこと)	船橋市における文学活動の振興を図るため、また創作活動をしている市民に作品を発表する場を提供することにより、文芸活動が盛んになることを目的として実施している。		
事業概要 (誰に、何を、どうするのか)	小説・児童文学・詩・短歌・俳句の各部門の作品を公募し、特に優れた作品を選奨(文学賞、佳作を選考)する。3月には授賞式と懇談会を開催して選者と受賞者、応募者の交流の場を設けており、文学賞、佳作を受賞した作品からは「船橋市文学賞作品集」として編纂し有償頒布をしている。文学講座は小説部門から順に1部門ごとに実施しており、講師は原則として文学賞選者となっている。		
実施背景 (事業を実施することになった背景・要因)	市民の日常的な文学活動の活性化を通して、豊かな市民生活の創造に資することを目的とし、昭和63年に創設。		
これまでの経緯 (対象者・要件・限度額、サービス内容などの制度の変遷)	制度の変遷は特になし		
事業内容	対象者	内容(要件・単価・限度額・サービス内容など)	
	市内在住、在勤、在学、市内公民館等で文芸活動に参加している方		

事業実績

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業費 (単位:千円)	当初予算額	2,808	2,783	2,762	2,762
	うち一般財源	2,808	2,783	2,762	2,762
	決算(見込)額	2,677	2,581	2,492	-
対象者数・ 交付件数など	文学賞応募者数	168件	138件	148件	141件
	文学講座応募者数※	36/30人	コロナにより中止	20/20人	30/30人
	※文学講座は例年定員を超える応募があり、定員に達して以降の応募は断っている。				

交付税、国・県補助の有無

	有無	(ありの場合)名称・内容
交付税措置	なし	
国・県補助	なし	
(国・県補助への) 上乗せ・横出し	なし	

業務量

繁忙期	9・10月、1・2月				
業務頻度 (年1回・月1回など)	年1回				
人工		常勤職員	会計年度任用職員	再任用(フル)	再任用(短)
	人工	1.0 人工	1.0 人工	0.0 人工	0.0 人工
	従事者数	1 人	1 人	0 人	0 人

※ 職員1人の労働力=1人工。当該事業の人工を記載。複数人が携わっている場合は、それぞれの人工を合計。

【記載例】従事者数:2人、労働力の割合がそれぞれ3割の場合 ⇒ 合計0.6人工(0.3人工+0.3人工)

評価結果

所属名	文化課
事業名称	船橋市文学賞（船橋市文学賞・文学講座）

（１）一次評価（自主点検）で明らかとなった課題、今後の方向性（改善のアイデア）

項目		課題	今後の方向性
1	事業の目的・意義	市川市を除き、近隣市のほとんどが同様の事業を実施していない。	—
2	事業の周知・活性化	対象者が固定されている懸念があり、直近10年間で応募者が200件前後で増減がない。	—
3	事務負担	冊子作成にあたり応募作品の手書き文字をデータ化する事務負担が大きい。しかし、読み取りできない文字が多くあることからAI-OCRの活用は困難。	あらかじめデジタル化された電子メール応募の推奨等、事務効率化を検討。
4			

（２）追加で整理した課題、今後の方向性（改善のアイデア）

項目		課題	今後の方向性
1	事業の目的・意義	他市においては地域活性化や市の周知という主旨から当該市特有の内容をテーマにしているケースが見受けられるが、船橋市は市ゆかりのテーマ設定がないなど、船橋市が事業を実施する目的・意義が不明確となっている。	船橋市が事業を実施する目的・意義を改めて整理し、目的・意義に則した実施方法を検討する。
2	事業の周知・活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・応募者の実力をみる意図で短歌俳句は30作品の提出を応募条件としているため、応募者となるハードルが高い。 ・応募者の年代に偏りがある傾向が見られる。 	
3	事務負担	—	—
4			

取組状況

※令和4年度評価結果に対する各年度の取組状況を記載しています

所属名		文化課			
事業名称		船橋市文学賞（船橋市文学賞・文学講座）			
項目	状況	令和5年度状況	令和6年度状況	令和7年度状況	
1	事業の目的・意義	継続 本事業の実施目的等を整理することとしているが、今年度中に結論に至らなかったため、引き続き検討している。	-	-	
2	事業の周知・活性化	継続 あらためて本事業の実施目的等を整理している段階であり、その状況に合わせて実施方法を検討している。	-	-	
3	事務負担	完了 冊子作成にあたり、受賞作品については、紙媒体で応募された原稿についても、できる限りデータでの提供を求め、事務効率化を図った。	-	-	
4		-	-	-	